

【取扱い厳重注意】

平成24年5月21日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局
局員 仁保 智紀

平成24年5月21日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりであるので報告する。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

原子力安全・保安院 [redacted] 安全審査官 [redacted]

2 聴取日時

平成24年5月21日午後1時30分頃から同日午後1時45分頃まで

3 聴取場所

経済産業省別館11階1115会議室

4 聴取者

仁保 智紀 主査

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

SPDSデータのERSSへの伝送について
別紙のとおり。

第3 特記事項

特になし。

以上

【取扱い厳重注意】

別紙

1. 被聴取者の身分

■ 審査官は、メディアコンバータ（MC）の設置工事が行われた平成 22 年当時、福島第一原子力保安検査官（副所長）兼防災専門官として、上記工事について、東電、原子力安全基盤機構（JNES）等と調整に当たった。

2. 聴取内容

（当方より、東電職員へのヒアリングにおいて、「平成 22 年に、東電の担当職員が MC の設置のための事前の現場確認として福島第一原発研修棟保安検査官室に行き、その場にいた保安検査官（誰であったかは不明）に対し、『防災ラック』（JNES が管理するラックで、緊急時対策支援システム（ERSS）回線が引き込まれている）の場所を尋ねたところ、この保安検査官は、MC が設置されるべきラックとは異なるラック（保安院が管理するラック。以下『保安院ラック』という。）を指し示した」旨の供述があることを踏まえ、事実関係を問うたところ）具体的な日付等は覚えていないが、確かに私は、福島第一原発保安検査官室で執務に当たっていた時、東京電力緊急時対応情報システム（SPDS）データ伝送経路変更工事に関連して、東電の職員からラックの場所を尋ねられた記憶がある。具体的なやりとりは覚えていないが、私は、保安検査官室内にある 3 つのラック（防災ラック、保安院ラック、東電ラック）を示し、各ラックの管理主体が誰であるか程度の説明はしたはずである。ただし、当時私は、各ラックに設置されている機器の詳細は何ら把握しておらず、もし上記東電職員から MC の接続先や無停電電源装置（UPS）の場所等の詳細について聞かれていれば、そもそも回答できないわけであり、また、実際にそのようなやりとりをしたという記憶もないので、上記東電職員は、「ラックはどれですか。」と私に尋ね、それに対して私は、上述のとおり、上記 3 つのラックを指し示し、各ラックの管理主体について説明したと思う。